
産業成長戦略の平成30年度の進捗状況等

・ 観光分野	1 ~ 11
--------	-------	--------

分野：観光分野

戦略の柱1：戦略的な観光地づくり

取組方針：歴史と食を一体的に運動させた戦略的な観光地づくり、本県の豊かな自然を活かしたアウトドア拠点の整備、官民の一層の連携による広域観光組織の体制及び機能の強化

【概要・目的】

- ・広域観光の核となる観光拠点の整備、地域の特色を活かした魅力的な観光商品づくり
- ・「土佐の観光創生塾」を通じた人材育成と地域観光クラスターの形成

- ・広域観光組織の機能強化
- ・歴史資源の磨き上げと地域の食・自然などが一体となった周遊コースの整備

平成30年度の当初計画 (P)

1. 本県観光の強みである食・歴史・自然の更なる磨き上げによる戦略的な観光地づくり

- (1) アウトドア拠点など核となる観光地づくりの推進と再活性化
 - ・室戸世界ジオパークの磨き上げ
 - ・新足摺海洋館の建築等工事に着手(～H31年度末)
 - ・竜串海洋観光クラスター協議会の設立、クラスター形成に向けた協議(～3月)等
 - ・越知町キャンプ場の施設等の整備及びオープンに向けた準備(オープン予定：日ノ瀬-春、宮の前-H31春)
 - ・本山町アウトドア拠点の施設等の整備(～3月)
 - ・大川村白滝の里の改修に向けた基本計画・基本設計の策定
 - ・土佐清水市爪白キャンプ場の施設等の整備(～3月)
 - ・三宝山観光拠点化に向けた実施設計や施設工事等の実施
 - ・龍河洞の活性化に向けた本洞や周辺の再整備等の実施 等
- (2) 【拡充】「土佐の観光創生塾」の更なる充実による自然体験型観光商品づくりと事業者連携(地域観光クラスター化)の推進
 - ・「ポスト幕末維新博」に向けた自然体験事業者を対象とした講座の充実
 - ・参加事業者の商品磨き上げ・販売及び事業者連携を促進するため、地域コーディネーターによるハンズオン支援の強化(随時)
- (3) 「志国高知 幕末維新博(第二幕)」の開催を通じた歴史観光資源の磨き上げ(リ活化)と官民協働による観光クラスターの形成
 - ・歴史資源の継続した磨き上げの実施(随時)
 - ・観光クラスターの継続した形成と磨き上げ(随時)
 - ・広域エリアでの周遊ルートの確立(中規模・大規模クラスター、二次交通の整備)(随時)
 - ・地域会場への支援(歴史資源磨き上げ技術支援、館内ガイドの配置、多言語対応支援等)(随時)
 - ・地域会場及び観光クラスターのPDCAに関する市町村協議、改善策の実施(随時)
- (4) 【新規】自然&体験キャンペーンに向けた準備対応(対象となる資源の磨き上げとクラスターの形成)
 - ・伊尾木洞を核とした観光拠点の整備
 - ・柏島情報発信拠点施設の整備等

2. 官民の一層の連携による広域観光組織の体制及び機能の強化

- 各組織の状況に応じた機能強化や体制整備への支援
- ・広域観光組織の職員のスキルアップに向けた地域観光コーディネーターの配置(随時)
- ・広域観光組織の中長期計画に基づく事業の実施状況の確認と改善(随時)
- ・広域観光組織の設置及び法人化に向けた協議(随時)
- ・土佐いほく博の準備対応
- ・ポスト幕末維新博に向けた取組(セールスなど)

計画を進めるに当たってのポイント

1. 多岐にわたるステークホルダーとの調整

平成30年度の取り組み状況 (D)

1. 本県観光の強みである食・歴史・自然の更なる磨き上げによる戦略的な観光地づくり

- (1) アウトドア拠点など核となる観光地づくりの推進と再活性化
 - ・室戸世界ジオパークの更なる磨き上げに向けた企画展等の検討に向けた関係者協議(4/21)
 - ・室戸世界ジオパーク推進協議会総会(6/8)日本ジオパークの再認定に向けた全体会(7/9)、担当者会議(7/26)、現地審査(8/2～5 県レベル)に参画し、進捗状況の確認と支援。日本ジオパーク委員会よりユネスコ世界ジオパーク国内再認定(9/20)
 - ・新足摺海洋館の建築主体工事(6月県議会で議決)、飼育設備工事(9月県議会で議決)及び設備工事(電気・空調・衛生)の着手(7～10月) 造成工事等の先行工事の完了(10月)、指定管理者の導入に係る設管条例の一部改正(9月議会で議決)、公募開始(10月)、審査(1月)、2月議会に指定管理者の指定議案を提案予定
 - ・竜串海洋観光クラスター協議会の設立(4/9)、クラスター形成に向けた協議会に参画(第2回：5/9、第3回：7/4、第4回：12/21)
 - ・土佐清水市爪白キャンプ場の日本ジオパークの審査(現地審査7/12～13 県レベル)の対応と支援。日本ジオパーク新規認定には至らず(9/20)審査の総括(11/9、10)を実施し、引き続き新規認定に向け取り組むことを確認
 - ・越知町キャンプ場の施設等の整備を観光拠点等整備事業費補助金等により支援(日ノ瀬：4/22整備済、宮の前：H31.4整備予定)※指定管理者は(株)スノーピーク(スノーピークと県の包括協定(4/22))
 - ・本山町アウトドア拠点施設の建築工事に向けた協議や、温浴施設、レストラン等の配置・設備計画について関係者協議に参画(6回(直近11/13)(モンベルと県の包括協定(4/9))、ビジターセンター等をH31.7整備予定 ※指定管理者は(株)モバヘルパックス(11/16指定)
 - ・土佐清水市爪白キャンプ場の整備を地域観光振興交付金にて支援(交付決定6/13、H31.4整備予定 ※指定管理者は(株)スノーピーク(10/22指定)
 - ・大川村プロジェクト(観光交流部会5/16、7/13、村県連携会議6/15)と連携させた白滝の里改修基本計画の策定支援(プロポーザル実施済み)
 - ・三宝山観光拠点化の取組を一旦仕切り直した香南市の対応を注視
 - ・「龍河洞活性化に向けたマスタープラン」(H30.4策定)に基づき、鍾乳洞再整備を観光拠点整備事業費補助金で支援。龍河洞エリア活性化協議会(5/16、10/4、11/28)、分科会(4/18、7/18)に参画
- (2) 「土佐の観光創生塾」の更なる充実による自然体験型観光商品づくりと事業者連携(地域観光クラスター化)の推進
 - ・土佐の観光創生塾の参加者募集
 - ・受講者告知媒体(県HP(5/18～)、庁内クラスター所管課・市町村・観光協会・広域組織(5/21)、TV・ラジオ読み上げ(6/1～))
 - ・申込者 基礎編100人、応用編83人(76事業所)
 - ・土佐の観光創生塾の開催
 - <基礎編>観光のトレンドや観光地づくりの基礎
 - 第1回(6/20、高知市、79人) 第2回(7/18、高知市、67人)
 - 第3回(9/19、高知市、49人) 第4回(11/20、高知市、46人) 計241人
 - <応用編>旅行商品の造成・磨き上げ、OTA活用方法、事業戦略
 - 第1回 東部(6/15、15人)、中央(6/14、23人)、西部(6/19、32人) 計70人
 - 第2回 東部(7/3、12人)、中央(7/5、19人)、西部(7/4、27人) 計58人
 - 第3回 東部(9/27、7人)、中央(9/26、9人)、西部(9/25、19人) 計35人
 - 第4回 東部(11/6、8人)、中央(11/7、13人)、西部(11/5、22人) 計43人
 - ・地域コーディネーターによるハンズオン支援の実施
 - ・受講者に対する地域コーディネーターによる旅行商品の造成・磨き上げや事業戦略策定などのハンズオン支援(随時)
 - ・旅行商品の造成・磨き上げの実施
 - ・目標64商品：内20が商品化(OTA登録16件)※12/14現在。季節限定で募集終了も含む。
- (3) 「志国高知 幕末維新博(第二幕)」の開催を通じた歴史観光資源の磨き上げ(リ活化)と官民協働による観光クラスターの形成
 - ・梶原町：梶原千百年物語りリニューアル(3/31)
 - ・本山町：大原富枝文学館リニューアルオープン(4/1、セレモニー4/15)

課題と平成31年度の取り組み (C、A)

見えてきた課題・改善策

1. 本県観光の強みである食・歴史・自然の更なる磨き上げによる戦略的な観光地づくり

- (1) アウトドア拠点など核となる観光地づくりの推進と再活性化
 - ・核となる観光拠点の整備に向けた資源の発掘
 - ・観光拠点の整備などと合わせた、地域に新たな経済効果をもたらす仕組みの構築
- (2) 「土佐の観光創生塾」による地域の事業者が主体となった自然体験型観光商品の拡大と事業者連携の推進
 - ・OTAでの販売を見据えた観光商品の磨き上げと事業者が連携した地域観光クラスターの形成
 - ・事業者の個別フォローの強化と磨き上げ
- (3) 【新規】磨き上げてきた「食」や「歴史」の観光資源に加えて、「自然&体験キャンペーン」を通じた観光資源の磨き上げと観光クラスターの形成
 - ・自然・体験型の観光資源を磨き上げ、付加価値を高めるとともに、外商につなげ、持続可能な観光クラスターの形成を進める
 - ・歴史資源の活用への継続に向けた支援
- (4) 民間活力を積極的に導入した観光地づくり
 - ・市町村物件と観光開発の意向がある有望企業のピックアップを更に進め、マッチングの機会を拡大し民間活力を導入した観光振興を推進

2. 官民の一層の連携による広域観光組織の体制及び機能の強化

- ・広域観光組織を担う人材の確保育成及び地域の関係者との連携した商品造成の支援
- ・土佐いほく博に向けた取組の加速化(アウトドア拠点施設の開設、アクティビティ・生活文化体験づくり、地元グルメの磨き上げ、セールスの強化)
- ・広域観光組織の現状を踏まえDMO化も見据えた、県としての支援のあり方の検討

平成31年度の取り組み(予定)

1. 本県観光の強みである食・歴史・自然の更なる磨き上げによる戦略的な観光地づくり

- (1) アウトドア拠点など核となる観光地づくりの推進と再活性化
 - ・新足摺海洋館の建築等工事の施工(～H31年度末)及び開館に向けた広報等の実施、指定管理者による管理代行の開始(4月～)
 - ・竜串海洋観光クラスター協議会に参画し、クラスター形成や具体的な連携策などの協議・実行 等
 - ・越知町キャンプ場の宮ノ前オープンに伴う日ノ瀬との連携や周遊促進に向けた運営手法の確認
 - ・本山町アウトドア拠点の施設等の整備に係る進捗確認や指定管理者とのキャンペーンに係る連携、土佐いほく博におけるビジターセンターとしての役割等を協議(～6月)
 - ・土佐清水市爪白キャンプ場のリニューアルオープン(4月予定)及びクラスター協議会で連携策の検討
 - ・龍河洞の活性化に向けた本洞や周辺の再整備等に係るH31年度事業の進捗確認と活性化協議会への参画、キャンペーンに向けたイベントや運営等に係る事業を支援予定 等
- (2) 「土佐の観光創生塾」による地域の事業者が主体となった自然体験型観光商品の拡大と事業者連携の推進
 - ・「自然&体験キャンペーン」の取り組みと連動し、一定の品質を確保した着地型旅行商品の造成・磨き上げを支援
 - ・地域コーディネーターによる事業戦略策定の個別支援を強化
 - ・ワークショップを共通の課題解決の場とし、地域での消費拡大を目指した事業者同士の連携を促進
- (3) 【新規】磨き上げてきた「食」や「歴史」の観光資源に加えて、「自然&体験キャンペーン」を通じた観光資源の磨き上げと観光クラスターの形成
 - ・自然・体験型の観光資源を磨き上げ、付加価値を高めるとともに、外商につなげ、持続可能な観光クラスターの形成を進める
 - ⇒ アウトドアレジャー施設のリニューアル、トレッキングルートの整備、アクティビティ(大型海上遊具、カヌー、SUP)の整備、湖面を活用したワカサギ釣り体験など新たな体験プログラムの造成、体験型宿泊施設の整備(基本構想)など 57件

分野：観光分野

戦略の柱1：戦略的な観光地づくり

取組方針：歴史と食を一体的に連動させた戦略的な観光地づくり、本県の豊かな自然を活かしたアウトドア拠点の整備、官民の一層の連携による広域観光組織の体制及び機能の強化

平成30年度の当初計画 (P)

平成30年度の取り組み状況 (D)

課題と平成31年度の取り組み (C, A)

- ・四万十市：四万十市立郷土博物館フルオープン (1/29 内覧会、2/1 オープン予定)
- ・土佐清水市：ジョン万次郎資料館リニューアルオープン (4/1)
- ・津野町：片岡直輝・直温生家リニューアルオープン (4/14)
- ・宿毛市：林邸リニューアルオープン (4/21)
- ・歴史資源の磨き上げにかかる地域支援専門チームによる支援：現地派遣5か所8回 (10月末時点) (累計104回)
- ・博覧会開催に合わせた地域会場へのガイド配置支援：13施設14ポスト (10月末現在)
- ・周遊コースの設定：県域18コース・広域18コース、市町村64コース (10月末現在)
- ・地域会場及び観光クラスターに係るデータ・実績の集約、現状の評価
PDCAチェックシート作成、データ実績の集約等：14市町村 (10月末現在)
上半期の振り返りと下半期の改善方向性検討
⇒8月準備作業、9月市町村ヒアリング実施、10月下旬 推進協議会で報告済
- ・地域会場運営連絡会ブロック会の開催
(第7回：7/27 東部、8/1 中部、8/2 幡多、8/2 高幡)
(第8回：11/16 高幡、11/19 幡多、11/20 東部、11/21 中部)
⇒ 幕末維新博の終盤に向け、イベント、企画展の充実を奨励、歴史資源の継続活用について説明
- ・夏休み期の集客対策の実施 (「遊んで、学べる。高知の夏キャンペーン」、各地域会場主体の集客対策)
- ・龍馬ファン向け小冊子「龍馬巡礼」(8月作成3万部)による地域会場への周遊促進
- ・地域イベント等支援事業費補助金拡充による市町村支援 (8/7 要綱改正)
⇒【新規】「高知 光のフェスタ ～明治維新150年、未来への彩り～」と連動した夜間イベントの開催を市町村に呼びかけ (市町村等の夜間イベントをキャンペーンパンフレットに掲載30件) (補助金による支援12件)
- (4)【新規】自然&体験キャンペーンに向けた準備対応(対象となる資源の磨き上げとクラスターの形成)
 - ・財政的支援策(補助メニューの拡充)の市町村・民間事業者向け説明会の開催
7/11 高幡、7/13 物部川、7/17 幡多、7/18 高知市・仁淀川、7/19 安芸、7/20 嶺北
 - ・H30年度観光拠点等整備事業費補助金及び地域観光振興交付金で各市町村の取り組みを支援
⇒26市町村39事業(自然景観3、体験滞在型観光施設19、体験プログラム15、その他2)を支援予定
＜採択済み22市町村30事業(自然景観3、体験滞在型観光施設14、体験プログラム11、その他2)＞
 - ・民間活力の導入を推進する「観光拠点等需要調査委託事業」により市町村が有する遊休地等の観光開発に係る可能性調査の準備(公募型プロポーザル7/20 公示、応募3社、8/22 プロポ審査会実施、委託事業者決定)
 - ・ガイド・インストラクターの養成・確保に向けた運用実態等の調査開始
⇒ H31年度当初予算での対策(求人情報の顕在化、養成研修等)を検討

2. 官民の一層の連携による広域観光組織の体制及び機能の強化

- ・広域観光協議会事務局長会議(4/23、8/14)を開催
自然・体験型観光キャンペーンの情報提供や誘致・広報に関する協力依頼と各協議会のH30事業の取組状況や課題を共有
- ・物部川DMO協議会(11/29 理事会)で法人化及びH31年度事業計画等について協議
- ・土佐れいほく博推進協議会(7/19、幹事会5/14、6/21、広報誘致部会5/23、企画受入部会5/28)でH30事業計画及び推進状況を確認、広報強化等の補正予算の決定
- ・奥四万十観光協議会推進部会(11/28)で奥四万十広域観光振興中期計画案を協議
- ・各広域観光組織に対する地域観光コーディネーターによるOJT支援(随時)

- ・キャンペーンのスタートを見据えた主なラインナップの整備(以下、オープン時期は予定)
 - ⇒ 2月 牧野植物園の拡充(新たな園地オープン)
柏島の観光案内施設(情報発信・物販)オープン
伊尾木洞の観光案内施設(ガイド常駐)オープン
高知龍馬マラソン
土佐の観光創生塾を通じた旅行商品の販売
 - 3月 四万十・足摺チャレンジライド
 - 4月 スノーピークおちい淀川キャンプフィールド(宮の前公園)オープン
爪白キャンプ場(土佐清水市)リニューアルオープン
 - 5月 龍河洞洞内コンテンツの整備・お披露目
 - 6月 大型海上遊具の整備・お披露目
 - 7月 アウトドアの里(本山町)オープン・土佐れいほく博の開幕
- ・自然景観(及び歴史資源等)を生かして新たな経済効果を生み出す観光クラスターの形成支援と磨き上げの実施
- ・歴史資源の活用継続に向けた支援(地域会場のPDCAサイクルの継続、歴史資源磨き上げ技術支援(文化振興課)、企画展等の開催に対する財政的支援、館内ガイド配置等)の実施及びこうちミュージアムネットワーク等と連携した情報発信の実施

(4) 民間活力を積極的に導入した観光地づくり

- ・市町村物件と観光開発の意向がある有望企業のピックアップを更に進め、マッチングの機会を拡大し民間活力を導入した観光振興を推進(市町村向けセミナーやブロック会の開催を通じた市町村物件の掘り起こし、有望企業のピックアップとファームツアーの実施など、マッチング機会の拡大を図る)
- ・ガイド・インストラクターの養成・確保に向けた研修事業等の実施

2. 官民の一層の連携による広域観光組織の体制及び機能の強化

- ・各広域観光組織に対する地域観光コーディネーターによるOJT支援(随時)
- ・観光組織の法人化に向けて随時協議を実施
- ・広域観光協議会事務局長会議の開催による情報及び課題の共有
- ・土佐れいほく博の開催に向けて協議会・幹事会・部会への参画による実行支援

【平成31年度末の目標 (H30到達目標)】

1. 核となる観光拠点の整備 = H31: 10か所<H30: 7か所>
2. アウトドア拠点の整備 = H31: 4か所<H30: 3か所>
3. 観光クラスター = H31: 20か所以上<H30: 20か所以上>
4. 地域観光クラスター = H31: 50クラスター<H30: 40クラスター>
5. 広域観光組織の法人化 = H31: 5か所<H30: 4か所>

【直近の成果】

1. 核となる観光拠点の整備 = 6か所(12月末時点 龍馬記念館、室戸ジオ、海洋堂ホビー館、高知城歴博、西南大規模公園、おちいキャンプフィールド)(H29年度末4か所)
2. アウトドア拠点の整備 = 1か所(12月末時点)(H29年度末 0か所)
3. 観光クラスター = 15か所(12月末時点)(H29年度末 15か所)
* 地域会場を設定する15市町村(高知市を除く)で整備
4. 地域観光クラスター = 29クラスター(12月末時点)(H29年度末 29クラスター)
5. 広域観光組織の法人化 = 3か所(12月末時点)(H29年度末 3か所)

【概要・目的】

- ・「志国高知 幕末維新博」の開催を通じたプロモーションとセールス活動の強化
- ・コンベンション等（MICE）の誘致活動の強化

平成 30 年度の当初計画（P）

1. 志国高知 幕末維新博の推進

- (1) 官民の関係者の協働による博覧会の開催
- (2) 博覧会の開催を活用した県外へのプロモーション活動の実施
- (3) アプリ等を活用したきめ細かな情報発信による観光客の周遊促進・誘導強化

2. ポスト幕末維新博に向けた準備対応

- (1) キャンペーンの実施要領の策定
- (2) キャンペーンに係るプロモーション活動の展開
- (3) キャンペーンに係る特設サイト（HP）の構築

3. 旅行エージェンต์向けのセールス&プロモーションの推進

- (1) 博覧会などの時期を捉えた旅行会社へのセールス活動の実施
- (2) 旅行会社の種別に合わせた販促キャンペーンの提案
- (3) 時期を捉えた効果的な誘客プロモーションの実施

4. 首都圏等のマスメディアを活用したパブリシティ活動

- (1) 既存事業で構築したネットワーク、PR 手法の活用
- (2) 幕末維新博と連携したパブリシティ活動の展開

5. 平成の薩長土肥連合による 4 県共同観光 PR 活動

- (1) 4 県知事による共同 PR 活動
- (2) 航空会社とのタイアップ事業

6. コンベンション等（MICE）の誘致活動の強化

- (1) セールスタージットの明確化によるセールスの強化
- (2) 関係機関との情報共有・連携強化と展示会への参加

7. 四国ツーリズム創造機構の四国 DMO に向けた取組

- (1) 日本版 DMO に向けた関係機関との合意形成

計画を進めるに当たってのポイント

1. 全国的な盛り上がりを意識し、メディアを効果的に活用したプロモーション・セールス活動の展開
2. コンベンション等（MICE）の誘致に向けた積極的なセールスと大会・学会開催の支援

平成 30 年度の取り組み状況（D）

1. 志国高知 幕末維新博の推進

- (1) 官民の関係者の協働による博覧会の開催
 - 第二幕開幕セレモニー・イベントの開催（4/21：来場者約 8,825 名、メディア 60 社 102 名）
 - 「威臨丸でゆく・龍馬クルーズ」の運航（4/21～4/23：5,931 名）
 - 公式ガイドブック及びかわら版（イベント情報）等による情報発信、第二幕のポスター、のぼりの掲示（4/9～）
 - 地域会場等での誘客イベントの実施
 - 幕末維新写真展：自由民権記念館（4/28～6/24）安芸市立歴史民俗資料館（7/14～9/2）大原富枝文学館（9/29～11/18）
 - 坂本龍馬「新国家」書簡展示：坂本龍馬記念館（4/21～7/9）
 - 運営委員会の開催（7/5、10/31）
 - 推進協議会の開催（7/12、11/5）
 - 「チームラボ 高知城 光の祭」の開催（11/22～1/6）来場者：112,174 名
 - 高知 光のフェスタ～明治維新 150、未来への彩り～の開催（11/1～1/14）対象：32 イベント

(2) 博覧会の開催を活用した県外へのプロモーション活動の実施

- 委託事業による近畿、中国・四国地方向けプロモーション活動（7/17～）
- 委託事業による全国向けテレビ等広報活動（7/31～）
- 平成の海援隊 ジョン万次郎の販売（4/21～）
 - 都内飲食店でのランチョンマットによる PR（DD ホールディングス）（6/1～）
 - 幕張メッセでのコラボ PR（タカラトミー）（7/29）
 - ゲーム維新祭の開催による PR（DeNA Games Tokyo）（7/31～8/31）
 - 首都圏メディア等に向けた記者発表会（8/2）
 - atmos 日曜市特別店による PR（atmos）（9/2）
 - ジョン万次郎資料館におけるトランスフォーマー特別展の実施（タカラトミー）（11/5～11/25）
 - 都内飲食店での PR（DD ホールディングス）（12/3～）
- その他の PR 活動
 - 大井競馬場における PR（5/8～10） 豊浜 SA 下り線における PR（6/1～6/30、10/1～10/31）
 - 表参道・スーパーよさこいにおける PR（7/1～8/26）
 - 佐賀県博覧会での PR（7/14～16）
 - まるごと高知 8 周年企画と連携した PR（7/29）
 - 高知県ゆかりの企業の社内報での PR（太陽石油 7/28、日本郵船 8/27）
 - LDH と連携した PR（9 月～12 月）
 - 高知 光のフェスタプロモーションの展開（TVCM、雑誌、新聞広告等）（10 月～1 月）
 - 「第 30 回全国龍馬ファンの集い 明治維新 150 年記念 東京大会」と連携した PR（10/6）
 - 北海道旅行博における PR（11/3、4） 関西メディアキャラバンによる PR（11/13～15）
 - 龍馬墓前祭における PR（11/14）

(3) アプリ等を活用したきめ細かな情報発信による観光客の周遊促進・誘導強化

- 幕末維新博カードラリー「土佐ゆかりの偉人巡り」（4/1～）
 - ：全会場制覇者 225 名（1/6 時点）
- アプリ「発見！ニッポン城めぐり」×幕末維新博タイアップ（4/21～1/31）
 - ：7,263 名（11/30 時点）
- 維新博レアスタンプ第 3 弾（4/1～6/30）、第 4 弾（7/1～9/30）
- 満喫クーポンブック（4/1～とさてらす）：7,000 部（12/31 時点）
- 「志国高知 幕末維新博」スクラッチキャンペーン！の実施（7/21～1/31）
 - ：応募 5,560 名（12/3 時点）

2. リョーマの休日～自然&体験キャンペーン～に向けた準備対応

- (1) キャンペーンの実施要領の策定（8/6 第 1 回準備委員会、9/11 第 2 回準備委員会、10/25 第 3 回準備委員会）
- (2) キャンペーンに係るプロモーション活動の展開
 - 旅行エージェンต์向けのセールス&プロモーション（3（2）（3）に掲載）等の中で徐々に発信
 - 新規航空路線就航と連動した PR（12/7～）
 - PR ツール（チラシ、ポスター、のぼり等）を活用したプロモーションの展開（12/12～）
- (3) キャンペーンに係る特設ウェブサイト（HP）の構築
 - 特設ウェブサイトの契約（7/31）

課題と平成 31 年度の取り組み（C、A）

見えてきた課題・改善策

1. 志国高知 幕末維新博の推進

- ・磨き上げてきた歴史資源や歴史系コンテンツの継続的な活用

2. リョーマの休日～自然&体験キャンペーン～の展開

- (1) 全国の中での話題化・認知度向上のための取組
- (2) ターゲットに応じたきめ細かな情報発信

7. 四国ツーリズム創造機構の四国 DMO に向けた取組

- ・四国の観光地づくりの舵取り役として十分な機能を発揮できる体制の構築に向けた展開

平成 31 年度の取り組み（予定）

2. リョーマの休日～自然&体験キャンペーン～の展開

- (1) 全国の中での話題化・認知度向上のための取組
 - ・話題化のヤマ場となるシーズンイベントや記者発表会の実施
 - ・メディアとのタイアップによる全国ネットでの露出
 - ・アウトドアメーカーや平成の海援隊など企業とのネットワークを生かした情報発信
- (2) ターゲットに応じたきめ細かな情報発信
 - ・特設ウェブサイトでの体験プログラムの一元的な紹介や PR とスムーズな予約販売の実現
 - ・動画、写真などを活用したシーズンごとの情報発信
 - ・インターネットを活用したウェブ広告の実施による特設ウェブサイトへの誘導
 - ・SNS（ツイッター、インスタグラム）の活用による情報拡散
 - ・近県向けのメディア露出

3. 旅行エージェンต์向けのセールス&プロモーションの推進

- ・これまで磨き上げてきた歴史や食資源に加えて自然&体験を前面に出しつつ、これらのコンテンツを効果的に組み合わせたセールス&プロモーションの展開
- ・下期商品造成に向けた旅行会社へのセールス活動（5 月下旬～）
- ・来年上期商品造成に向けた旅行会社へのセールス活動（9 月下旬～）
- ・商品造成に向けたモニターツアーの実施
- ・WEB 旅行会社とタイアップした販促活動

4. 首都圏等のマスメディアを活用したパブリシティ活動

- ・アウトドア関連メディアなど新たなメディアとの関係構築
- ・リリースや情報交換会を通じたメディアへのプロモート活動

6. コンベンション等（MICE）の誘致活動の強化

- (1) ターゲットの明確化による中小規模の大会・学会・報奨旅行のセールスのセールス強化
 - ・福利厚生代行企業との連携による PR
 - ・高知県ゆかりの企業へのアプローチ
- (2) 関係機関との情報共有・連携強化と展示会への参加

7. 四国ツーリズム創造機構の四国 DMO との連携

- (1) 日本版 DMO に向けた関係機関との合意形成
 - ・インバウンドにも通用する観光地域づくりの舵取り役として、金融期間との連携など十分な機能を発揮できる体制の構築

平成 30 年度の当初計画（P）

課題と平成 31 年度の取り組み（C、A）

3. 旅行エージェント向けのセールス&プロモーションの推進

- (1) 博覧会などの時期を捉えた旅行会社へのセールス活動の実施
 - 第二幕開幕 内覧会、観光説明会、商談会、モニターツアー（4/18～20：21社 53名）
- (2) 旅行会社の種別に合わせた販促キャンペーンの提案
 - 地域の観光関係者との協働によるセールスキャラバン（H30 下期向け：5/17 福岡（説明会 17社 62名、個別セールス 10社） 5/29 名古屋（説明会 11社 52名、個別セールス 16社）、6/27 広島（説明会 11社 52名、個別セールス 16社）、6/28 岡山（説明会 18社 41名））
- (3) 時期を捉えた効果的な誘客プロモーションの実施
 - JR 四国商品説明会での旅行会社向けプロモーション（5/30 大阪・説明会 19社 100名）
 - 四ツ創によるセールスキャラバン（9/27 東京 40社 229名、10/10 大阪 32社 138名、10/23 名古屋 16社 44名）
 - 高知県観光説明会での旅行会社向けプロモーション（H31 上期向け：1/24 大阪、1/30 東京予定）

4. 首都圏等のマスメディアを活用したパブリシティ活動

- (1) 既存事業で構築したネットワーク、PR手法の活用
 - 首都圏等マスメディア情報発信事業 プロボ審査会（6/6）、企画会議の開催（6/20）
- (2) 幕末維新博と連携したパブリシティ活動の展開
 - リリース等を通じたメディアへのプロモート活動
 - 第二幕開幕に合わせたメディアツアー（4/20～21：29社 39名）

5. 平成の薩長土肥連合による 4 県共同観光 PR 活動

- (1) 4 県知事による共同 PR 活動
 - 平成の薩長土肥連合幹事会（4/12）において H30 の事業計画等を決定
 - 平成の薩長土肥連合 PT 会議（8/8、12/17）において H30 の事業計画等を協議
 - 平成の薩長土肥連合情報発信会（10/6）：首都圏において観光 PR を実施
- (2) 航空会社とのタイアップ事業
 - 平成の薩長土肥割（ANA）の実施（3/25～12/31）
 - 羽田空港での PR 活動（9/1～2）

6. コンベンション等（MICE）の誘致活動の強化

- セールスや問い合わせの全体状況
 - 電話 70 件、来所 15 件、訪問 200 件（12 月末時点）
 - ※29 年度実績：電話 227 件、来所 29 件、訪問 162 件
- (1) セールスターゲットの明確化によるセールスの強化
 - 医学系・協定企業・協働の森パートナーズ企業・県ゆかりの企業・業界組織団体へのセールス
 - 医学系 17社（7～12 月）
 - 協定・協働の森企業 27社（5～8 月）
 - 高知県ゆかりの企業 34社（4～8 月）
 - 日本郵船 社内報掲載のための現地取材への同行（6/25-26）
 - 組織団体 57 件（5～12 月）
 - 大学 3 件（9～12 月）
 - セールス活動による誘致件数 15 件（12 月末時点）

7. 四国ツーリズム創造機構の四国 DMO に向けた取組

- (1) 日本版 DMO に向けた関係機関との合意形成
 - 高知県との意見交換会（4/26）、総会開催（5/10）の場での四ツ創への働きかけ
 - 香川・高知両県知事会議（5/11）、愛媛・高知交流会議（5/22）、四国知事会議（6/5）の場での各県への協力依頼
 - 第四次計画（2019 年から 3 年）策定のための担当課室長会議（8/6 徳島）にて、国際的に通用する観光地域づくり、民間事業者の巻き込み、継続的なマーケティングやプロモーションの実施のための安定的な財源を確保していくことの方針について合意。11/12 の担当課室長会議にて、民間活力も活用し強力な DMO になっていくことの方針を働きかけ
 - 四ツ創が一般社団法人として法人化（12/25）
- ※7 月豪雨の影響による風評被害への対応
 - OTA サイトでの宿泊割引の実施（楽天トラベル 8/20～、るるぶ 8/21～、じゃらん 9/3～）
 - 観光庁の平成 30 年 7 月豪雨観光支援事業費補助金を活用した 11 府県連携によるプロモーションや宿泊割引の実施（8/13 専決予算）
 - 平成 30 年 7 月豪雨観光支援事業実施（8/31～開始予定 宿泊対象期間：8/31～1/31 1/10 時点 38 千人泊）/44 千人
 - 中四国 9 県復興プロモーションにおける PR（11/27～）
 - 9 月補正予算により、OTA サイトでの広告掲載及び宿泊割引の実施（楽天トラベル 11/5～、るるぶ 11/13、じゃらん 11/1～）

【平成 31 年度末の目標（H30 到達目標）】

- 1. メイン会場（県立坂本龍馬記念館）の入館者数
 - ⇒ H31：-万人 <H30：4-12：15 万人>
- 2. メイン会場（県立高知城歴史博物館）の入館者数
 - ⇒ H31：10.6 万人 <H30：12 万人>
- 3. マスメディア等の媒体での露出件数
 - ⇒ H31：毎年 50 件以上 <H30：50 件以上>
- 4. 観光サポートアプリのダウンロード件数
 - ⇒ H31：1 万件 <H30：1 万件>
- 5. コンベンション等の受入実績 ⇒ H31：4 万人 <H30：3.6 万人>

【直近の成果】

- 1. メイン会場（坂本龍馬記念館）の入館者数
 - ⇒180,192 人（12 月末時点）（H29 年度末 10,690 人）
- メイン会場（高知城歴史博物館）の入館者数
 - ⇒303,345 人（12 月末時点）（H29 年度末 217,195 人）
- 2. 「龍馬パスポート」の利用者数
 - ⇒209,290 人（12 月末現在）（H29 年度末 193,508 人）
- 3. マスメディア等の媒体での露出件数
 - ⇒81 件（12 月末時点）（テレビ 26 件、紙媒体等 51 件、WEB 23 件）
- 4. 観光サポートアプリのダウンロード件数
 - ⇒17,106 件（12 月末時点累計）（H29 年度末累計 15,374 件）
- 5. コンベンション等の受入実績 ⇒120 件 28,572 人（12 月末時点）（H29 年度末 120 件 30,531 人）

分野：観光分野

戦略の柱 3：OMOTENASHI（おもてなし）の推進

取組方針：国内外からの観光客の満足度をさらに高めるための受入環境整備（クルーズ船の受入対応を含む）

【概要・目的】

- ・きめ細やかな観光情報の提供（県内広域 7カ所（ブロック）全てに外国人観光案内所の設置）
- ・外国人観光客を含む観光客の受入環境の整備を強力に推進（クルーズ船の受入対応を含む）
- ・おもてなしトイレ及びおもてなしタクシーの利用を促進
- ・誰もが楽しむことのできる高知県観光の推進

平成 30 年度の当初計画 (P)

平成 30 年度の取り組み状況 (D)

課題と平成 31 年度の取り組み (C, A)

1. 国内外からの観光客の満足度を高めるための受入環境整備（クルーズ船の受入対応を含む）

- 龍馬パスポートの継続と拡充
- きめ細やかな観光情報の提供
 - 県内広域 7カ所（ブロック）全てに外国人観光案内所の設置
- 観光基盤の整備（受入態勢の充実）
 - クルーズ客船寄港時の乗船客等への受入態勢の充実
 - 中心商店街への臨時観光案内所の設置 43 回
 - 飲食店の多言語メニュー作成支援及び普及促進
 - 多言語通訳コールセンターの開設
 - 【拡充】外国人観光客とのコミュニケーション力の向上
 - モバイル Wi-Fi ルーター貸出事業
 - 外国人観光客の利便性向上のための Wi-Fi 認証の手続きの簡素化
- 【新規】バリアフリー観光の推進

2. 観光客の満足度をさらに高めるおもてなしの取組

- おもてなしトイレ、おもてなしタクシーの拡大
 - おもてなしトイレの周知と利用拡大に向けた取組
 - おもてなしタクシーの利用拡大と認定数の拡大に向けた取組
 - 新規タクシードライバーの認定講習（月 1 回）
 - おもてなしタクシー認定講習（5 月、8 月、11 月、1 月）
 - タクシー業界 4 団体との意見交換（年間 3～4 回）
- 外国人観光客へのおもてなしができる観光人材及び観光ボランティアガイドの育成
 - 観光ガイド研修交流会の開催（全体 1 回、地域別 3 回）
 - 観光ガイド個別勉強会の開催（10 団体）
 - 観光ガイドによる避難訓練の実施（高知県観光ガイド連絡協議会加盟全団体）
 - 観光ガイド連絡協議会への加盟促進
- 観光客満足度向上のための取組
 - 観光客動向調査の実施
 - 調査結果の関係団体へのフィードバックと情報提供

計画を進めるに当たってのポイント

- 受入環境を整備する市町村や民間団体等への働きかけ、理解の促進
- 観光客のおもてなしトイレ・タクシーの利用拡大、おもてなしタクシーの認定者数及び稼働人数の拡大

1. 国内外からの観光客の満足度を高めるための受入環境整備（クルーズ船の受入対応を含む）

- 龍馬パスポートの継続と拡充
 - ・利用者数：209,290 人（12/31 現在）（H29 年度末 193,508 人）【再掲】
- きめ細やかな観光情報の提供
 - 県内広域 7カ所（ブロック）全てに外国人観光案内所の設置
 - 「自然&体験キャンペーン」に向けた観光案内所の実態調査、役割分担の検討
 - ・市町村観光主管課長会での外国人観光案内所の設置に関する説明・周知：4/27
 - ・市町村等個別訪問：仁淀川地域 5/23、9/3、9/5、12/18、12/19、12/27
 - ・嶺北地域 8/6、12/13 東部地域 12/21、物部川地域 12/12、高幡地域 12/11、幡多地域 12/20
 - ・外国人観光案内所：14カ所（うち 1カ所予定）（H30 認定：まろうどん館（梶原町）、室戸世界ジオパークセンター（室戸市）、高知市観光案内所（高知市（予定）））
- 観光基盤の整備（受入態勢の充実）
 - クルーズ客船寄港時の乗船客等への受入態勢の充実
 - ・中心商店街への臨時観光案内所の設置：28 回（うち 1 回予定（3 月））
 - ・駐車場対策 6 回
 - ・高知港外国客船受入協議会市街地受入部会：6/14、9/13、1/22（予定）
 - ・高知港外国客船受入協議会企画連携部会：11/27
 - ・クルーズ客船寄港時の渋滞対策に関する関係者との協議：9/13
 - ・四国銀行等と決済環境に関する協議：6/20、8/21、10/9、10/18、10/23、10/24
 - ・インバウンドセミナー in 高知（主催 四国アライアンス）：2 月（予定）
 - 飲食店の多言語メニュー作成支援及び普及促進（12 月末時点）
 - ・登録数：312 店舗、公開数 57 店舗（平成 29 年度末時点 200 施設、42 店舗）
 - 多言語通訳コールセンターの開設（12 月末時点）
 - ・登録施設：355 施設（平成 29 年度末時点 313 施設）
 - ・利用実績：70 件（平成 29 年度 132 件）
 - ・対象施設への登録案内・対象施設の拡大（観光協会会員等）
 - 外国人観光客とのコミュニケーション力の向上
 - ・外国人観光客受入研修実施観光地エリアの選定：5/23（室戸市、香南市、四万十市）
 - ・エリア別セミナーの実施：7/5 室戸市、7/10 四万十市、8/30 香南市
 - ・個別研修の実施（9 月～：3 エリア 25 事業者）
 - モバイル Wi-Fi ルーター貸出事業（12 月末時点）
 - ・モバイル Wi-Fi ルーター貸出件数：224 台（平成 29 年度：161 台）
 - 外国人観光客の利便性向上のための Wi-Fi 認証の手続きの簡素化（12 月末時点）
 - ・外国人観光客がスムーズに利用できる Wi-Fi 環境が整備された施設：76 施設（H30：道の駅大山）
 - ・高知県外国人観光客向け Free Wi-Fi 整備推進協議会の開催：10/12
- バリアフリー観光の推進
 - ・先進地施設：6/1、2 伊勢志摩バリアフリーツアーセンター（三重県）
 - ・現地調査に係る研修及び現地調査の実施：6/25、7/31、8/1
 - ・バリアフリー状況自己点検シート（交通機関 Ver）による自己点検の実施及び理解の促進：122 施設
 - ・現地調査の実施：9 月～（12 月末現在実施：57 施設（宿泊施設 17、観光施設 33、交通施設 7））
 - ・おもてなし県民会議にてバリアフリー観光推進部会の設置について協議：8/21
 - ・バリアフリー観光相談窓口の設置に向けた庁内検討会：10/22
 - ・高知県おもてなし県民会議バリアフリー観光推進部会：10/26、2 月（予定）
 - ・バリアフリー観光推進セミナー：10/29（東部）、10/30（西部）、10/31（中部）

見えてきた課題・改善策

1. 国内外からの観光客の満足度を高めるための受入環境整備（クルーズ船の受入対応を含む）

- 龍馬パスポートの継続と拡充
 - ・さらなる県内周遊促進及びリピーター対策の実施
- きめ細やかな観光情報の提供
 - ・「自然&体験キャンペーン」に合わせ観光客の多様なニーズにきめ細かに対応し周遊を促すため、ハード・ソフト両面からの観光案内所の機能充実
- 観光基盤の整備（受入態勢の充実）
 - 外国クルーズ客船寄港時の乗船客等への受入態勢の充実
 - ・高知市中心市街地におけるツアーバスの安全で円滑な駐車場対策の実施
 - 「自然&体験キャンペーン」に合わせた受入環境の整備
 - ・体験事業者等観光関連事業者における外国人観光客受入スキルの向上等
- バリアフリー観光の推進
 - ・障害者や高齢者など多様なニーズを持つ観光客へのきめ細かな観光情報を提供するバリアフリー観光相談窓口の 2020 年設置に向けた取組
 - ・バリア・バリアフリー観光情報の提供方法の検討・実施

2. 観光客の満足度をさらに高めるおもてなしの取組

- おもてなしトイレ、おもてなしタクシーの拡大
 - ・「自然&体験キャンペーン」に向けたおもてなしトイレの現状確認
 - ・テレビ・ラジオや県広報誌等を活用したおもてなしタクシーの PR の実施
- 外国人観光客にもおもてなしができる観光人材及び観光ボランティアガイドの育成
 - ・観光関連事業者における外国人観光客の受入スキルの向上
 - ・観光ガイド団体の育成
- 観光客満足度向上のための取組
 - ・体験事業者等のサービス水準の確保

平成 31 年度の取り組み（予定）

1. 国内外からの観光客の満足度を高めるための受入環境整備（クルーズ船の受入対応を含む）

- 龍馬パスポートの継続と拡充
 - 龍馬パスポートの更新（Ver3→Ver4）
- きめ細やかな観光情報の提供
 - 観光案内所の機能充実
 - 「自然&体験キャンペーン」に合わせハード・ソフト両面からの観光案内所の機能充実
 - ・【新】観光案内所向け研修の実施（アドバイザー派遣）
 - ・【新】自然・体験型観光受入環境整備事業費補助金（観光案内所の機能充実）

【概要・目的】

- ・きめ細やかな観光情報の提供（県内広域7カ所（ブロック）全てに外国人観光案内所の設置）
- ・外国人観光客を含む観光客の受入環境の整備を強力に推進（クルーズ船の受入対応を含む）
- ・おもてなしトイレ及びおもてなしタクシーの利用を促進
- ・誰もが楽しむことのできる高知県観光の推進

平成30年度の当初計画（P）

平成30年度の取り組み状況（D）

課題と平成31年度の取り組み（C、A）

2. 観光客の満足度をさらに高めるおもてなしの取組

- (1) おもてなしトイレ、おもてなしタクシーの拡大
- おもてなしトイレの周知と利用拡大に向けた取組
 - ・おもてなしトイレ満足度向上事業委託契約（6/6）新規認定の募集、認定の実施（6/29～順次（12月末現在：8カ所認定））
 - ・おもてなしトイレ表彰の募集：6/29～7/31、表彰の実施：11/10、11/12（4カ所）（新規認定及び表彰応募促進チラシの作成及び配布：7月（1万部））
 - おもてなしタクシーの利用拡大と認定数の拡大に向けた取組
 - ・新規認定講習、更新時講習（5/25、8/27、11/1、11/5（四万十市）、1/10（予定））
 - ・おもてなしタクシー認定審査会、タクシー団体との意見交換会（6/25、9/7、12/4、2月（予定））
 - ・利用促進ポスターの配布（6月～）
 - ・県庁正面玄関の電子案内板及び高知駅構内のデジタルサイネージへポスターデータを掲示（県庁正面玄関：5月～、高知駅構内：6月～8月）
 - ・クルーズ客船寄港時、岸壁でタクシー利用者へ観光ガイドマップを配布：7月～
 - ・ポケットティッシュの作成、配布：7月～、10,000部
 - ・タクシードライバーおもてなしマイนด์表彰の実施：11/2（6名）
- (2) 外国人観光客へのおもてなしができる観光人材及び観光ガイド団体の育成支援
- 観光ガイド研修交流会の開催等
 - ・観光ガイド全体研修交流会の開催：2/13（予定）
 - ・観光ガイド地域別研修会の開催：9/26（西部）、10/17（中部）、11/21（東部）
 - ・観光ガイド団体個別勉強会の開催：10団体（うち7団体予定（12月～2月））
 - ・観光ガイド団体避難訓練の実施：30団体（うち20団体予定）
 - ・観光ガイド団体と県との意見交換の実施
 - 高知 SGG 善意通訳クラブとの意見交換（6/11）、高知城でのガイドについて土佐観光ガイドボランティア協会、SGGほかと意見交換（7/11）
 - ・観光ガイド連絡協議会総会（5/16）、理事会（4/5、5/16、6/27、1/18（予定））
 - 加盟団体数 30 団体（新規加盟 2 団体（芸西村あるき、もとやまフットパス））
 - （観光ガイド団体数：44 団体（2 団体新規立ち上げ：越知町、本山町））
 - 観光ガイドおもてなしアドバイザーの派遣
 - ・観光ガイドおもてなしアドバイザー制度の申請受付開始（5/25）、観光ガイドおもてなしアドバイザー派遣先決定・派遣：6市町（うち2市町予定）
- (3) 観光客満足度向上のための取組
- 観光客動向調査の実施
 - ・「おもてなしの宿アンケート」、「お客様の声アンケート」の実施（6月～）
 - 調査結果の関係団体へのフィードバックと情報提供
 - ・高知市旅館ホテル組合正副理事長会にてH29年度結果を情報提供：7/23
 - ・高知県旅館ホテル生活衛生同業組合事務局と意見交換：8/28
 - ・おもてなし県民会議にて関係団体にH29年度結果を情報提供：8/21
 - ・おもてなし県民会議にておもてなしキャンペーン及びおもてなしトイレ、タクシーについての取り組み協議：8/21
 - 「自然&体験キャンペーン」の実施に向けた体験プログラムの満足度の測定、体験事業者等へのフィードバックの方法の検討

- (3) 観光基盤の整備（受入態勢の充実）
- 外国クルーズ客船寄港時の受入態勢の充実
 - 高知県通訳コールセンターの運営
 - モバイル Wi-Fi ルーターの貸出
 - 外国人観光客の利便性向上のための Wi-Fi 認証手続きの簡素化の推進
 - 外国人観光客とのコミュニケーション力の向上支援
- (4) バリアフリー観光の推進
- バリアフリー観光相談窓口の2020年設置に向けた取組
 - ・観光、宿泊、交通各施設の情報収集・蓄積
 - ・バリアフリー観光相談窓口設置検討
 - ・情報提供Webサイト構築に向けた取組
 - ・バリアフリー観光推進セミナーの開催

2. 観光客の満足度をさらに高めるおもてなしの取組

- (1) おもてなしトイレ、おもてなしタクシーの拡大
- おもてなしトイレの周知・利用拡大に向けての取組
 - ・【新】「自然&体験キャンペーン」に合わせたおもてなしトイレの再確認
 - おもてなしタクシーの利用拡大と認定数の拡大に向けた取組
- (2) 外国人観光客にもおもてなしができる観光人材及び観光ガイド団体の育成
- ・外国人観光客とのコミュニケーション力の向上支援【再掲】
 - ・観光ガイド研修交流会の開催等
 - ・観光ガイドおもてなしアドバイザーの派遣
- (3) 観光客満足度向上のための取組
- ・観光客動向調査の実施
 - ・顧客の評価を体験事業者等にフィードバックする機会の創出
 - 【新】「自然&体験キャンペーン」の実施に合わせた体験プログラム等の満足度の測定、体験事業者等へのフィードバックの実施

【平成31年度末の目標（H30到達目標）】

1. 外国人観光案内所の設置箇所数 15箇所（H30到達目標 15箇所）
2. バリア情報、バリアフリー情報の収集件数（現地調査）
宿泊施設 100件（H30到達目標 40件）、観光施設 100件
（H30到達目標 40件）、交通施設 30件（H30到達目標 10件）
3. おもてなしタクシーの稼働数 600人（H30到達目標 500人）
4. おもてなしトイレの認定数 850箇所（H30到達目標 830箇所）
5. 観光ボランティアガイド団体数 45団体（H30到達目標 44団体）

【直近の成果】

1. 外国人観光案内所設置箇所数 13箇所（12月末時点）（H29年度末 11箇所）
2. バリア情報、バリアフリー情報の収集件数（現地調査）
・現地調査：宿泊施設 17件、観光施設 33件、交通施設 7件（12月末時点）
・自己点検シート：観光施設 64件、宿泊施設 63件、交通施設 122件（12月末時点）
3. おもてなしタクシーの稼働数 343人（12月末時点）（H29年度末 337人）
4. おもてなしトイレの認定数 808箇所（12月末時点）（H29年度末 800箇所）
5. 観光ボランティアガイド団体数 44団体（12月末時点）（H29年度末 43団体）

分野：観光分野

戦略の柱4：国際観光の推進

取組方針：効果的な広報・セールス活動の展開、外国人向け旅行商品づくり、高知龍馬空港の整備と連携したアクセス環境の向上、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた「よさこい」の戦略的な展開

【概要・目的】

- ・現地メディアを活用した情報発信を強化
- ・2020東京オリンピック・パラリンピックでのよさこい演舞の実現に向けたプロモーション
- ・旅行業界等に精通した現地法人を活用した定期的・継続的な旅行会社へのセールス
- ・よさこいの世界的なネットワークづくり
- ・国際チャーター便の誘致拡大と高松空港からのアクセス環境を向上

平成30年度の当初計画 (P)

平成30年度の取り組み状況 (D)

課題と平成31年度の取り組み (C, A)

1. 外国人向け旅行商品づくり

・旅行者に近い場所にセールス機能を置き、旅行動向や流行を把握しながら、団体旅行に加え、個人旅行者 (FIT) のニーズに対応した「旅行商品」の販売を促進

2. 国際チャーター便の誘致拡大等によるアクセス環境の向上【新規】

・国際チャーター便の戦略的な誘致拡大と商品造成販売
・高松空港等からのアクセスの向上

3. 効果的な広報・セールス活動の展開

・現地メディアの観光担当記者への訪日旅行シーズンなどに合わせた情報発信を行い、タイムリーな露出につなげるとともに、現地の旅行業界等に精通した事業者と連携した定期的なセールスの実施

4. 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた「よさこい」の戦略的な活用

- (1) 2020東京オリパラへ向けたよさこいプロモーション
 - ・開閉会式での演舞に向けたオリパラ組織委員会等への効果的な要望活動
 - ・国等が主催するオリパラフラッグツアーイベントへの参画や全国ネットのテレビ局等に対するよさこい活用の企画提案づくり
 - ・全国のよさこい主催団体が集えるプロモーションの積極的な展開
- (2) よさこいの世界的なネットワークづくり
 - ・よさこいの世界的なネットワークづくりをさらに推進していくため、新たに北米や南米を中心としたよさこいアンバサダーの認定
 - ・よさこいが普及していない国や地域によさこい海外普及支援員 (よさこいマイスター) を派遣し、よさこい鳴子踊りの振付や曲づくり、新たなチームの立ち上げなどを支援

計画を進めるに当たってのポイント

1. 各市場の旅行ハイシーズンに合わせたセールス活動とプロモーションの強化
2. 高知龍馬空港の整備と連携し、国際定期路線化を見据えたチャーター便の誘致、高松空港からのアクセス向上の二次交通PR
3. 北米・南米へよさこいアンバサダーを拡大

1. 外国人向け旅行商品づくり

・台湾、香港、シンガポール、タイの4市場で旅行業界に精通した現地法人 (レップ) を活用し旅行商品販売促進事業を展開 (4市場 KPI: 11,500人泊 実績: 10,050人泊/H30.11月末時点)

・米豪市場に在日外国人アドバイザーを配置、個人旅行 (FIT) 商品の販売 (H31.1月末予定)

・旅行会社セールス (現地法人): (延べ) 台湾99社、香港51社、シンガポール58社、タイ47社 (H30.11月末時点)

・旅行会社セールス (県及びKVCA独自): シンガポール2社、中国7社、韓国6社、仏4社 (H30.12月末時点)

2. 国際チャーター便の誘致拡大等によるアクセス環境の向上

・現地法人等による航空会社セールス: 5社 (台湾)、2社 (香港) KPI: 20往復 実績: 0往復

・高知県チャーター便 (予定): 台北-高知 計7往復 (1~2月)

・四国内チャーター便 (予定): 高雄-高松 計5往復 (3月)、台北-松山 6往復 (3月)、香港-徳島 計29往復 (12~3月)

・県内宿泊施設等によるインバウンド推進連絡会を組織化 (宿泊施設25社、観光協会5団体参画)

3. 効果的な広報・セールス活動の展開 (H30.12月末時点)

- (1) 海外旅行博や商談会への戦略的な出展や、ファミツアーの受入れによるセールス活動
 - ①海外旅行博・商談会への出展
 - 【旅行博出展】計17回 (実施済13回) 高雄、広州、台北、パリ、香港、シンガポール、インドネシア (予定4回) マニラ (1月) 台北 (2月) パリ (3月)
 - 【商談会等】計15回 (実施済11回) 台北、上海、香港、タイ、欧米豪、シンガポール、韓国 (予定4回) 台北・高雄、中国 (1月) 香港 (2月) 台湾 (3月)
 - ②ファミツアー受入
 - 【旅行会社】計14回 (実施済13回 (59社65名)) 中国、マレーシア、香港、台湾、韓国、タイ、シンガポール、米、豪、仏、ベトナム、英、独 (予定1回) 中国 (1月)
 - 【海外メディア】計27回 (実施済23回 (55社81名)) 台湾、香港、タイ、シンガポール、欧米豪 (予定4回) 香港、米・豪、韓国 (1月) 台湾・香港・シンガポール・米 (2月) ・米豪アドバイザーファミ (12月、1月予定)
- (2) 海外メディアへの情報発信
 - ①重点市場での情報発信 台湾 58媒体173件、香港 27媒体73件、シンガポール 2媒体4件、タイ 2媒体2件
 - ②現地メディアとの情報交換会の開催 計3回 (台湾7月、香港8月、韓国1月)
 - ③VISIT KOCHI JAPANでの情報発信
 - ・SNS (Facebook 英語版、中国語繁体字版) は市場ニーズに合わせた記事を月10本程度を配信

4. 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた「よさこい」の戦略的な活用

- (1) 2020東京オリ・パラへ向けたよさこいプロモーション
 - ①東京オリ・パラ開閉会式でのよさこい演舞に向けたプロモーションの展開
 - ・組織委員会 (開閉会式総合統括等) への企画提案づくり
 - ・組織委員会事務総長 (11/13) 及び副会長 (11/30) への要望活動
 - ②実行委員会の組織強化
 - ・5府県5団体が新規加盟 (青森、栃木、富山、福島、大阪/H30.12月末時点35都道府県88団体)
 - ・顧問就任: 北海道、京都府、三重県、朝霞市、津市が新規就任 計9団体
 - ・総会を開催し、2020年度までの事業計画及び年度別スケジュールを承認 (11/13)
 - ・理事との意見交換会の開催 3回 (7/26~7/27、8/10、11/13)
 - ・よさこいフラッグリレーの実施 (8/25からスタートし、41カ所 (団体) でリレーを実施)
- (2) よさこいの世界的なネットワークづくり
 - ①よさこいアンバサダーの認定
 - ・認定式の実施: アメリカ、ブラジル及びパラグアイ 計3カ国5チーム14名 (累計56名)
 - ・海外チームのよさこい祭りへの参加を調整
 - 桜舞ポーランド国際チーム (高知県よさこいアンバサダー) 12カ国/地域が参加
 - 特別枠での参加、県による支援スタッフの配置2名 (8/8~8/11)
 - ②海外イベント等への派遣と調整
 - ・フランス ジャポニスム2018 (10/18~10/24、29名)、台湾新竹県客家芸術祭 (10/12~10/14、10名)、2019台湾ランタンフェスティバル in 屏東 (H31.2月、40名予定)、カタール サムライフェスティバル

見えてきた課題・改善策

1. 外国人向け旅行商品づくり
 - ・海外市場向けのキラーコンテンツづくり
 - ・自然&体験キャンペーンを生かした個人旅行 (FIT) 向け旅行商品の企画と販売
 - ・重点市場の拡充によるセールス拠点の追加
 - ・四ツ創と四国各県と連動した誘致事業の強化
2. 国際チャーター便の誘致拡大等によるアクセス環境の向上
 - ・台湾等からのチャーター便就航に向けた現地法人 (レップ) と連携した継続的なセールス
 - ・近隣国際線空港と連携し、チャーター便就航に向けた航空会社への継続的なセールスと高知宿泊商品の増
3. 効果的な広報・セールス活動の展開
 - ・自然&体験キャンペーンを生かした個人旅行 (FIT) 向けの SNS などを活用した広報戦略の策定
4. 2020年東京オリ・パラに向けた「よさこい」の戦略的な活用
 - ・開閉会式等でのよさこい演舞実現に向けた具体的な方策の検討
 - ・東京オリ・パラ組織委員会への要望
 - ・開閉会式総合統括やテレビ局等への企画提案づくり
 - ・よさこいをさらに世界へ広めていくための戦略づくり
 - ・「よさこい祭りの日」宣言に伴うよさこい祭りの活性化に向けた関係団体との協議 (競演場の維持発展、観客席の観覧環境の改善、文化財の指定に向けた検討など)

平成31年度の取り組み (予定)

1. 外国人向け旅行商品づくり
 - ・自然&体験キャンペーンを生かした個人旅行 (FIT) 向け旅行商品の造成・販売
 - ・米豪市場での個人旅行 (FIT) 商品を重点市場へ横展開
2. 国際チャーター便の誘致拡大等によるアクセス環境の向上
 - ・海外セールス拠点による四国各県の空港を活用したチャーター便の誘致
 - ・国際チャーター便を活用した商品造成
3. 効果的な広報・セールス活動の展開
 - ・海外セールス拠点の追加 (米・豪・中・韓)
 - ・個人旅行 (FIT) 商品のラインナップの充実と個人旅行 (FIT) 専用 AGT での販売 (OTA 含む)
 - ・外国人目線での効果的な旅行会社・メディアによるファミツアーの実施
 - ・国内外の企業等と連携し SNS などを活用した情報発信の展開
 - ・自然&体験キャンペーン特設サイトと VISIT KOCHI JAPAN サイトとの連動
 - ・海外 AGT や在日ランドオペレーターへの個別セールスの実施
4. 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた「よさこい」の戦略的な活用
 - (1) 2020東京オリ・パラへ向けたよさこいプロモーション
 - ・開閉会式等での演舞実現に向けたオリ・パラ組織委員会や全国ネットのテレビ局に響く企画の検討と提案
 - ・全国のよさこい主催団体が集える企画・プロモーションの展開
 - ・メディア等のよさこい祭りへの招請
 - (2) よさこいの世界的なネットワークづくり
 - ・ヨーロッパを中心としたよさこいアンバサダーの認定
 - ・よさこいが普及していない国/地域へのよさこい鳴子踊りの振り付け等の支援
 - (3) 「よさこい祭りの日」宣言に基づく取り組みの実施
 - ・五者担当会の継続 (競演場への支援、文化財の指定に向けた検討など)
 - ・観客席の観覧環境の改善

分野：観光分野

戦略の柱 4：国際観光の推進

取組方針：効果的な広報・セールス活動の展開、外国人向け旅行商品づくり、高知龍馬空港の整備と連携したアクセス環境の向上、
2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた「よさこい」の戦略的な展開

【平成 31 年度末の目標 (H30 到達目標)】

1. 外国人延べ宿泊者数 14.8 万人泊 <H30:12.3 万人>
2. 飲食メニューを多言語化した飲食店の数 800 店舗 <H30:700 店舗>
3. 全国よさこいネットワーク組織への参加団体数 200 団体<H30:100 団体>
→日本全国へのネットワーク化を目指す観点からすべての都道府県からの参画を最終目標とする
4. よさこい祭りが開催されている国/地域の数 40 カ国/地域
<H30:33 カ国/地域>

平成 30 年度の取り組み状況 (D)

- ③よさこい海外普及支援員（よさこいマイスター）の追加登録及び派遣
- ・昨年度からの継続を合わせ、14 名を協力者として登録（9 月）
 - ・JICA 訓練所へのよさこい指導者の派遣（5/14、参加者 19 名）
 - ・パラオ日本フェアへのよさこいマイスターの派遣（2/15～2/18 予定）
 - ・JICA 日系社会短期ボランティア派遣による海外での普及・啓発（パラグアイ・アルゼンチン）

【直近の成果】

1. 外国人延べ宿泊者数
61,110 人泊（H30.1 月～10 月速報値）【H29.1 月～12 月確定値 75,410 人泊】
- ・旅行会社セールス（延べ）
台湾 99 社、香港 51 社、シンガポール 58 社、タイ 47 社、中国 7 社、韓国 6 社、
仏 4 社（H30.11 月末時点）【H29 年度 延べ 193 社 うち新規 85 社】
- ・訪日旅行誘致事業助成金（チャーター便）以外
70 件 3,379 名（H30.11 月末時点）【H29 年度 96 件 9,077 名】
- ・外国人向け Web サイト「VISIT KOCHI JAPAN」PV 数
5 言語計 266,860PV（H30.4 月～12 月）【H29 年度 5 言語計 332,442PV】
- ・SNS（FB「Visit Kochi Japan」ファン数）
英語：188,812 人、中国語（繁体字）：38,102 人（H30.12 月末時点）
- ・飲食メニューを多言語化した飲食店の数
312 店舗、公開数 57 店舗（H30.12 月末時点）
2. 全国よさこいネットワーク組織への参加団体数
88 団体 35 都道府県（H30.12 月末時点）
3. よさこい祭りが開催されている国の数 28 カ国/地域（H30.12 月末時点）

【概要・目的】

- ・歴史を中心とした博覧会の開催を通じた地域の歴史資源の磨き上げと観光クラスターの整備
- ・観光産業を支える人材の育成と事業体の強化

平成30年度の当初計画 (P)

平成30年度の取り組み状況 (D)

課題と平成31年度の取り組み (C、A)

1. 観光産業を支える人材の育成と事業体の強化

- (1) 【拡充】「土佐の観光創生塾」の更なる充実による自然・体験型観光商品づくりと事業者連携（地域観光クラスター化）の推進【再掲】
 - ・「ポスト維新博」に向けたプログラムの強化（～3月）
 - ・参加事業者の商品磨き上げ・販売及び事業者連携を促進するため、地域コーディネーターによるハンズオン支援の強化（随時）
- (2) 外国人観光客へのおもてなしができる観光人材及び観光ボランティアガイドの育成【再掲】
 - ・観光ガイド研修交流会の開催（全体1回、地域別3回）
 - ・観光ガイド個別勉強会の開催（10団体）
 - ・観光ガイドによる避難訓練の実施（高知県観光ガイド連絡協議会加盟全団体）
 - ・観光ガイド連絡協議会への加盟促進

2. 「志国高知 幕末維新博（第二幕）」の開催を通じた歴史観光資源の磨き上げ（リ活化）と官民協働による観光クラスターの形成【再掲】

- (1) 歴史資源の継続した磨き上げの実施（随時）
- (2) 観光クラスターの継続した形成と磨き上げ（随時）
- (3) 広域エリアでの周遊ルートの確立（中規模・大規模クラスター、二次交通の整備）（随時）
- (4) 地域会場への支援（歴史資源磨き上げ技術支援、館内ガイドの配置、多言語対応支援等）（随時）
- (5) 地域会場及び観光クラスターのPDCAに関する市町村協議、改善策の実施（随時）

3. 広域観光組織の機能強化【再掲】

- (1) 各組織の状況に応じた機能強化や体制整備への支援
 - ・広域観光組織の職員のスキルアップに向けた地域観光コーディネーターの配置（随時）
 - ・広域観光組織の中長期計画に基づく事業の実施状況の確認と改善（随時）
 - ・広域観光組織の設置及び法人化に向けた協議（随時）
 - ・土佐れいほく博の準備対応
 - ・ポスト幕末維新博に向けた取組（セールスなど）

計画を進めるに当たってのポイント

1. 観光産業を支える人材の育成と事業体の強化

- (1) 「土佐の観光創生塾」の更なる充実による自然体験型観光商品づくりと事業者連携（地域観光クラスター化）の推進【再掲】
 - ・土佐の観光創生塾の参加者募集
 - ・受講者告知媒体（県HP（5/18～）、庁内クラスター所管課・市町村・観光協会・広域組織（5/21）、TVラジオ読み上げ（6/1～））
 - ・申込者 基礎編100人、応用編83人（76事業所）
 - ・土佐の観光創生塾の開催
 - <基礎編>観光のトレンドや観光地づくりの基礎
 - 第1回（6/20、高知市、79人）第2回（7/18、高知市、67人）
 - 第3回（9/19、高知市、49人）第4回（11/20、高知市、46人） 計241人
 - <応用編>旅行商品の造成・磨き上げ、OTA活用方法、事業戦略
 - 第1回 東部（6/15、15人）、中央（6/14、23人）、西部（6/19、32人） 計70人
 - 第2回 東部（7/3、12人）、中央（7/5、19人）、西部（7/4、27人） 計58人
 - 第3回 東部（9/27、7人）、中央（9/26、9人）、西部（9/25、19人） 計35人
 - 第4回 東部（11/6、8人）、中央（11/7、13人）、西部（11/5、22人） 計43人
 - ・地域コーディネーターによるハンズオン支援の実施
 - ・受講者に対する地域コーディネーターによる旅行商品の造成・磨き上げや事業戦略策定などのハンズオン支援（随時）
 - ・旅行商品の造成・磨き上げの実施
 - 目標64商品：内20が商品化（OTA登録16件）※12/14現在。季節限定で募集終了も含む。
- (2) 外国人観光客へのおもてなしができる観光人材及び観光ボランティアガイドの育成【再掲】
 - ・観光ガイド研修交流会の開催等
 - 観光ガイド全体研修交流会の開催：2/13（予定）
 - 観光ガイド地域別研修会の開催：9/26（西部）、10/17（中部）、11/21（東部）
 - 観光ガイド団体個別勉強会の開催：10団体（うち7団体予定（12月～2月））
 - 観光ガイド団体避難訓練の実施：30団体（うち20団体予定）
 - 観光ガイド団体と県との意見交換の実施
 - 高知SGG善意通訳クラブとの意見交換（6/11）、高知城でのガイドについて土佐観光ガイドボランティア協会、SGGほかと意見交換（7/11）
 - 観光ガイド連絡協議会総会（5/16）、理事会（4/5、5/16、6/27、1/18（予定））
 - 加盟団体数30団体（新規加盟2団体（芸西村あるき、もとやまフットパス））
 - （観光ガイド団体数：44団体（2団体新規立ち上げ：越知町、本山町））
 - ・観光ガイドおもてなしアドバイザーの派遣
 - 観光ガイドおもてなしアドバイザー制度の申請受付開始（5/25）、
 - 観光ガイドおもてなしアドバイザー派遣先決定・派遣：6市町（うち2市町予定）

2. 「志国高知 幕末維新博（第二幕）」の開催を通じた歴史観光資源の磨き上げ（リ活化）と官民協働による観光クラスターの形成【再掲】

- ・梶原町：梶原千百年物語りリニューアル（3/31）
- ・本山町：大原富枝文学館リニューアルオープン（4/1、セレモニー4/15）
- ・四万十市：四万十市立郷土博物館フルオープン（1/29内覧会、2/1オープン予定）
- ・土佐清水市：ジョン万次郎資料館リニューアルオープン（4/1）
- ・津野町：片岡直輝・直温生家リニューアルオープン（4/14）
- ・宿毛市：林邸リニューアルオープン（4/21）
- ・歴史資源の磨き上げにかかる地域支援専門チームによる支援：現地派遣5か所8回（10月末時点）（累計104回）
- ・博覧会開催に合わせた地域会場へのガイド配置支援：13施設14ポスト（10月末現在）
- ・周遊コースの設定：県域18コース・広域18コース、市町村64コース（10月末現在）
- ・地域会場及び観光クラスターに係るデータ・実績の集約、現状の評価
- ・PDCAチェックシート作成、データ実績の集約等：14市町村（10月末現在）
- ・上半期の振り返りと下半期の改善方向性検討
 - ⇒8月準備作業、9月市町村ヒアリング実施、10月下旬 推進協議会で報告済
- ・地域会場運営連絡会ブロック会の開催
 - （第7回：7/27 東部、8/1 中部、8/2 幡多、8/2 高幡）
 - （第8回：11/16 高幡、11/19 幡多、11/20 東部、11/21 中部）
 - ⇒幕末維新博の終盤に向け、イベント、企画展の充実を奨励、歴史資源の継続活用について説明

見えてきた課題・改善策

1. 観光産業を支える人材の育成と事業体の強化

- (1) 「土佐の観光創生塾」による地域の事業者が主体となった自然体験型観光商品の拡大と事業者連携の推進【再掲】
 - ・OTAでの販売を見据えた観光商品の磨き上げと事業者が連携した地域観光クラスターの形成
 - ・事業者の個別フォローの強化と磨き上げ
- (2) 外国人観光客にもおもてなしができる観光人材及び観光ボランティアガイドの育成【再掲】
 - ・観光関連事業者における外国人観光客の受入スキルの向上
 - ・観光ガイド団体の育成

2. 【新規】磨き上げてきた「食」や「歴史」の観光資源に加えて、「自然&体験キャンペーン」を通じた観光資源の磨き上げと観光クラスターの形成【再掲】

- ・キャンペーンの開始に合わせた観光拠点の整備及び関係市町村等との連携
- ・民間の優れた力/かりを活用する観光拠点等需要調査の実効性を確保するため、市町村や委託事業者との連携・調整
- ・歴史資源の活用に向けた支援（歴史資源磨き上げ技術支援（文化振興課）、企画展等の開催に対する財政的支援、館内ガイド配置等）、こうちミュージアムネットワークや関係市町村との調整

3. 民間活力を積極的に導入した観光地づくり【再掲】

- ・市町村物件と観光開発の意向がある有望企業のピックアップを更に進め、マッチングの機会を拡大し民間活力を導入した観光振興を推進

4. 広域観光組織の機能強化【再掲】

- (1) 各組織の状況に応じた機能強化や体制整備への支援
 - ・広域観光組織を担う人材の確保育成及び地域の関係者との連携した商品造成の支援
 - ・土佐れいほく博に向けた取組の加速化（アウトドア拠点施設の開設、アクティビティ・生活文化体験づくり、地元グルメの磨き上げ、セールスの強化）
 - ・広域観光組織の現状を踏まえDMO化も見据えた、県としての支援のあり方の検討

平成31年度の取り組み（予定）

1. 観光産業を支える人材の育成と事業体の強化

- (1) 「土佐の観光創生塾」による地域の事業者が主体となった自然・体験型観光商品の拡大と事業者連携の推進【再掲】
 - ・「自然&体験キャンペーン」の取り組みと連動し、一定の品質を確保した着地型旅行商品の造成・磨き上げを支援
 - ・地域コーディネーターによる事業戦略策定の個別支援を強化
 - ・ワークショップを共通の課題解決の場とし、地域での消費拡大を目指した事業者同士の連携を促進
- (2) 外国人観光客にもおもてなしができる観光人材及び観光ガイド団体の育成【再掲】
 - ・外国人観光客とのコミュニケーション力の向上支援
 - ・観光ガイド研修交流会の開催等
 - ・観光ガイドおもてなしアドバイザーの派遣

平成30年度の当初計画 (P)

平成30年度の取り組み状況 (D)

課題と平成31年度の取り組み (C, A)

- ・夏休み期の集客対策の実施（「遊んで、学べる。高知の夏キャンペーン」、各地域会場主体の集客対策）
- ・龍馬ファン向け小冊子「龍馬巡礼」（8月作成3万部）による地域会場への周遊促進
- ・地域イベント等支援事業費補助金拡充による市町村支援（8/7 要綱改正）
⇒【新規】「高知 光のフェスタ ～明治維新150年、未来への彩り～」と連動した夜間イベントの開催を市町村に呼びかけ（市町村等の夜間イベントをキャンペーンパンフレットに掲載30件）（補助金による支援12件）

3. 【新規】自然&体験キャンペーンに向けた準備対応(対象となる資源の磨き上げとクラスターの形成)【再掲】

- ・財政的支援策（補助メニューの拡充）の市町村・民間事業者向け説明会の開催
7/11高幡、7/13物部川、7/17幡多、7/18高知市・仁淀川、7/19安芸、7/20嶺北
- ・H30年度観光拠点等整備事業費補助金及び地域観光振興交付金で各市町村の取り組みを支援
⇒26市町村39事業（自然景観3、体験滞在型観光施設19、体験プログラム15、その他2）を支援予定
＜採択済み22市町村30事業（自然景観3、体験滞在型観光施設14、体験プログラム11、その他2）＞
- ・民間活力の導入を推進する「観光拠点等需要調査委託事業」により市町村が有する遊休地等の観光開発に係る可能性調査の準備（公募型プロポーザル7/20公示、応募3社、8/22プロポーザル審査会実施、委託事業者決定）
- ・ガイド・インストラクターの養成・確保に向けた運用実態等の調査開始
⇒H31年度当初予算での対策（求人情報の顕在化、養成研修等）を検討

4. 広域観光組織の機能強化【再掲】

- (1) 各組織の状況に応じた機能強化や体制整備への支援
- ・広域観光協議会事務局長会議（4/23、8/14）を開催
自然・体験型観光キャンペーンの情報提供や誘致・広報に関する協力依頼と各協議会のH30事業の取組状況や課題を共有
- ・物部川DMO協議会（11/29理事会）で法人化及びH31年度事業計画等について協議
- ・土佐れいほく博推進協議会（7/19、幹事会5/14、6/21、広報誘致部会5/23、企画受入部会5/28）でH30事業計画及び推進状況を確認、広報強化等の補正予算の決定
- ・奥四万十観光協議会推進部会（11/28）で奥四万十広域観光振興中期計画案を協議
- ・各広域観光組織に対する地域観光コーディネーターによるOJT支援（随時）

2. 【新規】磨き上げてきた「食」や「歴史」の観光資源に加えて、「自然&体験キャンペーン」を通じた観光資源の磨き上げと観光クラスターの形成【再掲】

- ・自然・体験型の観光資源を磨き上げ、付加価値を高めるとともに、外商につなげ、持続可能な観光クラスターの形成を進める
⇒アウトドアレジャー施設のリニューアル、トレッキングルートの整備、アクティビティ（大型海上遊具、カヌー、SUP）の整備、湖面を活用したワカサギ釣り体験など新たな体験プログラムの造成、体験型宿泊施設の整備（基本構想）など64件
- ・キャンペーンのスタートを見据えた主なラインナップの整備（以下、オープン時期は予定）
⇒2月 牧野植物園の拡充（新たな園地オープン）
柏島の観光案内施設（情報発信・物販）オープン
伊尾木洞の観光案内施設（ガイド常駐）オープン
高知龍馬マラソン
土佐の観光創生塾を通じた旅行商品の販売
3月 四万十・足摺チャレンジライド
4月 スノーピークおち仁淀川キャンプフィールド（宮の前公園）オープン
爪白キャンプ場（土佐清水市）リニューアルオープン
5月 龍河洞洞内コンテンツの整備・お披露目
6月 大型海上遊具の整備・お披露目
7月 アウトドアの里（本山町）オープン・土佐れいほく博の開幕
- ・自然景観（及び歴史資源等）を生かして新たな経済効果を生み出す観光クラスターの形成支援と磨き上げの実施
- ・歴史資源の活用の継続に向けた支援（地域会場のPDCAサイクルの継続、歴史資源磨き上げ、技術支援（文化振興課）、企画展等の開催に対する財政的支援、館内ガイド配置等）の実施及びこうちミュージアムネットワーク等と連携した情報発信の実施

3. 民間活力を積極的に導入した観光地づくり【再掲】

- ・市町村物件と観光開発の意向がある有望企業のピックアップを更に進め、マッチングの機会を拡大し民間活力を導入した観光振興を推進（市町村向けセミナーやブロック会の開催を通じた市町村物件の掘り起こし、有望企業のピックアップとファームツアーの実施など、マッチング機会の拡大を図る）
- ・ガイド・インストラクターの養成・確保に向けた研修事業等の実施

4. 広域観光組織の機能強化【再掲】

- (1) 各組織の状況に応じた機能強化や体制整備への支援
- ・各広域観光組織に対する地域観光コーディネーターによるOJT支援（随時）
- ・観光組織の法人化に向けて随時協議を実施
- ・広域観光協議会事務局長会議の開催による情報及び課題の共有
- ・土佐れいほく博の開催に向けて協議会・幹事会・部会への参画による実行支援

【平成31年度末の目標（H30到達目標）】

- 1. 観光創生塾を通じた人材育成と売れる旅行商品の造成 = H31：250件<H30：200件>
- 2. 観光クラスター【再掲】 = H31：20か所以上<H30：20か所以上>
- 3. 地域観光クラスター【再掲】 = H31：50クラスター<H30：40クラスター>
- 4. 広域観光組織の法人化【再掲】 = H31：5か所<H30：4か所>
- 5. 観光ボランティアガイド団体数【再掲】 = H31：45団体 <H30：44団体>

【直近の成果】

- 1. 観光創生塾を通じた人材育成と売れる旅行商品の造成 = 219件（12月末時点）（H29年度末199件）
- 2. 観光クラスター【再掲】 = 15か所（12月末時点）（H29年度末15か所）
- 3. 地域観光クラスター【再掲】 = 29クラスター（12月末時点）
（H29年度末29クラスター）
- 4. 広域観光組織の法人化【再掲】 = 3か所（12月末時点）（H29年度末3か所）
- 5. 観光ボランティアガイド団体数【再掲】 = 44団体（12月末時点）（H29年度末43団体）

分野：観光分野

戦略の柱2：戦略的な観光地づくり

効果的なセールス&プロモーション

取組方針：自然環境を活かしたスポーツツーリズムの推進

【概要・目的】

- ①プロスポーツの誘致
- ②メガスポーツイベントにおける事前合宿誘致
- ③県内プロスポーツへの支援の充実
- ④アマチュアスポーツの誘致
- ⑤スポーツを通じた地域づくり
- ⑥自然環境を活かしたスポーツツーリズムの推進
- ⑦地域スポーツ大会の開催
- ⑧持続可能な地域スポーツを推進するための地域スポーツハブの育成・支援

平成30年度の当初計画 (P)

1 プロスポーツの誘致 (プレシーズンマッチの確実な開催等)

- (1) プロ野球球団への定期的な訪問によるプレシーズンマッチの開催やキャンプ誘致 (4月～1月)
- (2) Jリーグチーム訪問等によるキャンプ誘致活動 (通年)
- (3) プロゴルフ大会の継続開催に向けた活動

2 メガスポーツイベントにおける事前合宿誘致

- (1) 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の事前合宿誘致
 - ・事前合宿の誘致活動を通じた取組
 - ・ホストタウン関連事業の実施
- (2) ラグビーワールドカップ2019の事前チームキャンプ
 - ・誘致活動 (招致委員会の設置)
 - ・レガシーの構築

3 県内プロスポーツへの支援の充実

- (1) 高知ファイティングドックス
 - ・公式戦やイベント告知など広報活動の支援
 - ・県及び市町村庁舎での公式グッズ販売やチラシ配布等に係る調整
- (2) 高知ユナイテッドスポーツクラブ
 - ・公式戦やイベント告知など広報活動の支援
 - ・県及び市町村庁舎での公式グッズ販売やチラシ配布等に係る調整

4 アマチュアスポーツの誘致

- (1) 戦略的な誘致活動
 - ・県内スポーツ施設の利用状況の把握と誘致ターゲットの選定
 - ・競技特性を踏まえた効果的な誘致対策の検討
- (2) 新たな合宿誘致や全国規模の大会の誘致
 - ・競技団体と連携した大会・合宿の誘致
 - ・KVCA 助成金の利用促進

5 スポーツを通じた地域づくり

- (1) 集落活動センター推進事業との連携
- (2) 地域スポーツハブ展開事業の実施
- (3) 全国レクリエーション大会の開催

6 自然環境を活かしたスポーツツーリズムの推進

- (1) 「ぐるっと高知サイクリングロード」環境整備
- (2) サイクリング観光のプロモーション
- (3) 市町村との協力によるイベント開催
- (4) 志国高知幕末維新博覧会関連イベントの開催
- (5) 県境をまたぐサイクリングの推進
- (6) 自然環境を活かしたスポーツ大会の開催支援

7 地域スポーツ大会の開催

- (1) 高知龍馬マラソンの開催 (H31. 2. 17)
 - ・安心安全で魅力ある大会づくり

8 持続可能な地域スポーツを推進するための地域スポーツハブの育成・支援

- (1) 地域スポーツハブ展開事業の実施【5(2)再掲】

計画を進めるに当たってのポイント

- 1 プレシーズンマッチの確実な開催 (ワールドベースボールクラシックの日程や次期シーズン開幕日を見据えた提案)

【平成31年度末の目標 (H30到達目標)】

- 1. アマチュアスポーツ合宿による県外宿泊者数 (人泊) = 55,000 人泊 (H30: 50,000 人泊)
- 2. ラグビーワールドカップチームキャンプ地の受入 = 1カ国以上
- 3. 自然環境を活かしたスポーツツーリズムの推進
 - ・自然を生かしたイベントによる新規入込者数 (新規イベント数=1,750人 (6大会) <H30: 1,500人 (5大会)>)
 - ・サイクリングイベントの県外参加者数=2,000人 (H30: 1,500人)
- 4. 高知龍馬マラソンの参加者 (エントリー) 数=10,000人 (H30: 10,000人)

平成30年度の取り組み状況 (D)

1 プロスポーツの誘致活動 (プレシーズンマッチの確実な開催等)

- (1) 高知でのプロ野球プレシーズンマッチ開催に向けた誘致活動
 - ・球団への訪問 (4月～ 計27回)
 - ・高知県フェアの開催：千葉ロッテ (4/1)、阪神2軍 (7/20)、西武 (8/1)、西武2軍 (8/12)
 - ・NPB ウェスタンリーグ公式戦の開催 (9/8、9 阪神 vs ソフトバンク) ※雨天中止
- (2) Jリーグチームへのキャンプ誘致活動
 - ・球団への訪問 (4月～ 計26回)
 - ・高知フェアの開催：徳島ヴォルティス (4/22)、横浜F・マリノス (5/12)、町田ゼルビア (10/14)、アビスパ福岡 (10/28)
- (3) プロゴルフ大会の実施に向けた活動
 - ・各主催社へ継続開催の協議交渉 (5/10、29)
 - ・ギャラリー数の増加に向けた受入定例会 (5/17、7/12、8/9、29、30、9/27、10/3、16～18、26、11/5、6、20)
 - ・カシオワールドオープンゴルフトーナメントの開催 (11/22～25)

2 メガスポーツイベントにおける事前合宿誘致

- (1) 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の事前合宿誘致
 - ・事前合宿の覚書の締結：チェコオリンピック委員会 (4/10)、スポーツシンガポール (4/20)
 - ・合宿の受入 (チェコ) ソフトボール男子 U19 (4/27～5/8)、カナ代表チーム (11/1～30) (シンガポール) シンガポールバドミントン U19 合宿 (8/20～24) (ロシア) ロシアカヌー代表選手 (11/9～25、12/2～18)
- (2) ラグビーワールドカップ2019の事前チームキャンプ
 - ・バドミントン日本代表 (3/30～4/6)、バドミントン U19 日本代表、ソフトボール女子日本代表 (11/26～12/3)
 - ・ホストタウン関連事業：異文化教室 (シンガポール：10/12 南国市、チェコ：10/18 須崎市)
- (3) ラグビーワールドカップ2019の事前チームキャンプ
 - ・アドバザ (アトワ) との協議 (4/14、5/13、19、5/30、6/15、7/13、8/2、20、9/16、10/22、11/1、11/8、12/5)
 - ・トンガコミュニティジャパン及びトンガ有識者との協議 (5/13)
 - ・事前キャンプ実施の決定通知書手交 (5/19)
 - ・トンガ人留学生と県内小中学生との文化交流 (7/18)
 - ・トンガ応援プロジェクト・ラグビーボール寄贈 (トンガ訪問 11/30～12/3)

3 県内プロスポーツへの支援の充実

- (1) 高知ファイティングドックス
 - ・公式戦やイベント告知など広報活動の支援
 - ・県及び市町村庁舎での公式グッズ販売やチラシ配布等に係る調整
- (2) 高知ユナイテッドスポーツクラブ
 - ・公式戦やイベント告知など広報活動の支援
 - ・県及び市町村庁舎での公式グッズ販売やチラシ配布等に係る調整

4 アマチュアスポーツの誘致

- (1) 戦略的な誘致活動
 - ・旅行会社との協議 (東京：4/2、26、5/11)
 - ・観光説明会でのPR (広島：6/27、岡山：6/28、大阪：7/26)
- (2) 新たな合宿誘致や全国規模の大会の誘致

5 スポーツを通じた地域づくり

- (1) 集落活動センター推進事業との連携
- (2) 地域スポーツハブ展開事業
 - ・地域スポーツコーディネーターの配置：土佐市 (4月)、南国市・土佐清水市 (7月)
 - ・促進委員会の開催：土佐市 (7/18、8/20、10/22)、南国市 (7/20、8/20、9/18、10/16、11/12)、土佐清水市 (7/27、9/28、11/15)
- (3) 全国レクリエーション大会の開催
 - ・実行委員会総会 (4/11)、運営委員会 (7/11)、大会 (9/21～23)

6 自然環境を活かしたスポーツツーリズムの推進

- ・サイクリングイベント (タイ) の招へいによるPV撮影、SNSでのLIVE配信 (8/28～31)、HP掲載 (12/12)
- ・四万十・南予横断2リバービューライド (9/9：荒天のため中止)
- ・サイクリングアイランド四国推進協議会 (5/23、10/30) (担当者会：4/20、9/6)
- ・「GREAT EARTH 高知仁淀ブルーライド」の開催 (新規、6/3)

7 地域スポーツ大会の開催

- (1) 高知龍馬マラソン実行委員会総会の開催 (H30. 6. 15)
- ・ファン種目に関する関係機関との協議 (4/9、5/16、18、6/7、13、28、7/3、20、10/30、11/8、12/10、13)
- ・大会アドバイザーとの協議 (5/17、7/12)

8 持続可能な地域スポーツを推進するための地域スポーツハブの育成・支援

- (1) 地域スポーツハブ展開事業の実施【5(2)再掲】

課題と平成31年度の取り組み (C, A)

見えてきた課題・改善策

- 1 プロスポーツの誘致活動
 - ・プレシーズンマッチの開催継続と、プレシーズンマッチ開催を契機とした2次キャンプ誘致
 - ・Jリーグキャンプ誘致に向けた取組 (複数チーム受入のための調整)
- 2 メガスポーツイベントにおける事前合宿誘致
 - ・受入体制の強化に向けた関係機関との協議
 - ・ホストタウン登録市町との連携強化
 - ・オリンピック・パラリンピック等経済会協議会との連携
 - ・トンガ王国と将来にわたって交流を継続していくための仕組みの検討
- 3 県内プロスポーツへの支援の充実
 - ・広報活動の充実
- 4 アマチュアスポーツの誘致
 - ・大阪等大都市への訪問協議
- 5 スポーツを通じた地域づくり
 - ・地域スポーツハブの展開に係る環境づくり
- 6 自然環境を活かしたスポーツツーリズムの推進
 - ・ぐるっと高知サイクリングロードの国内外へのPR及び環境整備の促進
- 7 地域スポーツ大会の開催
 - ・ファン種目に関する関係機関との協議 (交通規制や警備計画等)
- 8 持続可能な地域スポーツを推進するための地域スポーツハブの育成・支援【5再掲】

平成31年度の取り組み (予定)

- 1 プロスポーツの誘致活動
 - ・助成制度や施設整備等の受け入れ体制の強化
 - ・Jリーグキャンプ誘致に向けた取組
- 2 メガスポーツイベントにおける事前合宿誘致
 - ・受入体制の強化に向けた関係機関との協議
 - ・ホストタウン登録市町と県の連携を強化するための協議
 - ・トンガラグビーチームプレキャンプの受入 (9月)
- 3 県内プロスポーツへの支援の充実
 - ・公式戦やイベント告知など広報活動の支援
- 4 アマチュアスポーツの誘致
 - ・県内スポーツ施設の利用状況の把握と誘致ターゲットの選定
 - ・競技団体との連携強化
- 5 スポーツを通じた地域づくり
 - ・地域スポーツハブの展開に係る環境づくり (促進委員会の開催やイベントの実施)
 - ・新たな地域スポーツハブの立ち上げ
 - ・ニーズに応じたスポーツサービスの拡充
- 6 自然環境を活かしたスポーツツーリズムの推進
 - ・インフルエンサーを活用したPR活動
 - ・自然・体験型観光キャンペーンとの連携
 - ・4県連携サイクリングイベントの検討 (サイクリングアイランド四国)
- 7 地域スポーツ大会の開催
 - ・1万人規模の大会継続に向けた魅力ある大会づくり (交通規制、警備計画等)
- 8 持続可能な地域スポーツを推進するための地域スポーツハブの育成・支援【5再掲】

【直近の成果】

- 1. カシオワールドオープンゴルフトーナメントの開催 (11/22～25 観客 11,821人)
- 2. チェコ代表チーム (11/1～30)、ロシア代表選手 (11/9～25、12/2～18)
- 3. トンガ応援プロジェクト・ラグビーボール寄贈 (トンガ訪問 11/30～12/3)
- 4. 高知県スポーツ振興推進本部会議 (5/25、8/21)、高知県スポーツ振興県民会議競技力向上部会 (5/30)、地域スポーツ推進部会 (5/31、9/3) 高知県スポーツ振興県民会議 (6/14、9/12)
- 5. 第72回全国レクリエーション大会 (47都道府県から延べ14,548人の参加)
- 6. 高知龍馬マラソンエントリー数の増加 (13,481名 (前回大会比+654名))